

周防大島町は学校運営協議会を立ち上げ地域に開かれた学校、地域の特性を生かした教育の推進に取り組んでいます。ここでは、早くから周防大島町の活性化に取り組んでおられる、大野圭司さんに地域への思いと、今後の展望についてうかがいました。

※ふるさとへの想いをお聞かせください。

私は山口県の最東端、周防大島町伊保田で生まれ育ち、祖父母と父が学んだ周防大島町立油田（ゆだ）小学校を平成二年三月に卒業しました。全校七十人程度の小さな学校だったので、毎日の掃除や風揚げ大会等の行事は縦割り班で、上五つ下五つまでは皆兄弟のように育まれました。三年生の時に習った「太郎こおろぎ」という物語にとっても思い出があります。主人公太郎が友人しのちゃんの消しゴムを床下に落とし、それを拾いに床下に下りるので、当時の油田小学校も木造校舎で床下に下りられる箇所があり、男子で昼休みに忍び込み「太郎こおろぎ」になりました。忍び込んだ事が先生に見つかって叱られたのですが、毎日学校に行くのがとても楽しかったです。

※なぜ、周防大島にUターンされたのですか？

中学校三年の日記に、二十代後半で島に帰り島おこしを仕事にすると書いて

ていました。大好きな島が過疎化する現状をどうにかしたいと強く思っていました。中学校卒業後は広島県の私立高校に進学するために島を出たため、外からの視点でふるさととの良さや家族のありがたさを深く感じる事ができました。その後、大阪芸術大学にて景觀デザインを学び、周防大島での定住型リゾートを研究し、卒業後は東京で働き、十六歳で島おこしをするためにUターンしました。

探訪シリーズ **この人 この歩み**
 コミュニティ・スクール
 スーパーバイザー
大野圭司さん
教育から島おこし



「島スタイル」、島の起業家を育む起業家養成塾「鳥スクエア」(文部科学省事業)、町立水族館・博物館等の指定管理者等を実践しました。微力ながらそれぞれ周防大島へ貢献する事ができたとは思いますが、平成二十年度で母校「油田中学校」が廃校になり、ふるさとが限界集落になりつつある事で、子どもたちのいる学校から地域づくりを目指したいと思いま

した。翌二十二年度に地元東和中学校とご縁を頂き、コミュニティ・スクールを基盤とした、起業家精神とプレゼンテーション能力を育むキャリア教育の実践に携わらせて頂いています。平成二十四年度にはキャリア教育優良学校・文部科学大臣表彰の受賞に貢献させて頂いています。

※これから目指される島おこしとは？

現在、周防大島観光協会では理事として「百年観光」のビジョンづくりを担わせて頂いています。町教育委員会ではコミュニティ・スクール・スーパーバイザーとして、小中学校のコミュニティ・スクール支援に取り組みさせて頂いています。そして将来、日本初のキャリア教育学部を有する町立大学を周防大島に設立するといふ夢を持ち、百年輝ける周防大島を目指し邁進中です。



鳥の振興を願う大野さんのまっすぐな気持ちに心を打たれました。また、そのバイタリティには、ただ驚くばかりです。今後の一層のご活躍を祈念するとともに、私たちも精進して、周防大島らしい教育活動に地域と一体になって取り組んでいこうと思いました。(油田小 金田繁満)

編集後記

平成二十六年度が終わろうとしている。来年度は、全国連合小学校長会研究協議会が山口県で行われることを受け、県内各支部では新しい教育の潮流を踏まえつつ、研究が進められてきている。そのような実践が積み上げられてきていることを強く感じている。

さて、本年度も皆さんの協力を得て年二回の「会報」を発行することができた。「研究紹介」では、秋季研究大会での各支部で取り組まれてきている研究内容を掲載し、また「支部情報」では、各支部、各学校の継続的で特色ある活動を掲載できた。そして「飛耳長目」では幅広い視野からの意見や提案を感じることができた。さらに「この人この歩み」で、様々な分野で活躍されている方々の思いや苦労を伝えることができた。本年度から年二回発行と回数は減ったが、それぞれの取組をつないでいくという役割は、大事にしていかなければならないという思いで、内容の充実を心掛けてきた。七名の編集委員で一生懸命に取り組み発行にこぎ着けることができ、ほっとしているところであるが、次年度の全国大会開催に向けて、さらにつながりを強めていけるよう取り組んでいきたい。

終わりに、ご多忙にもかかわらず原稿執筆をご快諾いただいた皆様に感謝の意を表し、編集後記としたい。